

第2章

第3期教育改革プランの総括と今後の方向性について

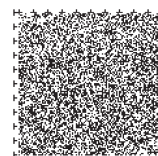
1 第3期教育改革プランの総括

第3期プランの評価指標に関する令和元年度の進捗及びプラン計画期間を通じての評価は、次のとおりです。なお、表中の評価欄の記号は、以下のとおりです。

評価欄	◎ 達成 (予定通り進捗) △ 未達成 (予定通り進捗せず)	○ 概ね達成 (概ね予定通り進捗) × 未着手
-----	-----------------------------------	----------------------------

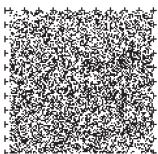
(1) 重点1 わかる授業【学力の保障と向上】

I	施策 授業改善への支援 (学校教育課)	評価指標 全国学力・学習状況調査結果で 全国平均を超える (全国学力・学習状況調査)	策定時 (%)				
			(H27)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)	
			小6	国語A	68.3	70.0	▲1.7
				国語B	63.2	65.4	▲2.2
				算数A	72.1	75.2	▲3.1
				算数B	42.7	45.0	▲2.3
			中3	国語A	72.3	75.8	▲3.5
				国語B	62.6	65.8	▲3.2
				数学A	60.3	64.4	▲4.1
				数学B	37.3	41.6	▲4.3
			※表中の数値は平均正答率である。				
令和元年度の成果等			現在 (%)				
評価	△		(R1)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)	
本年度、小学校については、国語で全国平均正答率を上回り、算数もプラン策定時と比較すると全国平均正答率との差が縮まった。			小6	国語	64	63.8	0.2
中学校については、国語・数学ともに全国平均を下回ったが、プラン策定時よりも、国語・数学ともに全国平均正答率との差が縮まった。				算数	65	66.6	▲1.6
本プラン計画期間を通じて、全ての教科区分で全国平均正答率を上回るといった評価指標の達成には至らなかった。			中3	国語	70	72.8	▲2.8
				数学	56	59.8	▲3.8
			※令和元年度よりA区分(基礎)とB区分(活用)が統合された。				



	施 策	評価指標	策定時 (%)
2	外国語教育の推進 (学校教育課)	中学校3年生までの英検3級の 取得率が全国平均を超える (英語教育実施状況調査)	H27年度 久留米市取得率 15.9 全国取得率 18.9
			令和元年度の成果等
	評価	◎	現在 (%)
	令和元年度の調査における英検3級(CEFR A1レベル) 以上の取得率は、昨年度の全国平均を超えることができた。 本プラン期間を通じて、全ての年度において英検3級の取 得率は全国平均を上回ることができた。		R1年度 久留米市取得率 32.0 全国取得率 未発表 H30年度(参考) 全国取得率 23.9

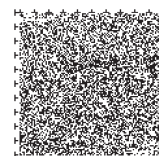
	施 策	評価指標	策定時 (%)																												
3	教師力向上への支援 (学校教育課) (教育センター)	授業がわかると答える児童生徒 の割合や学校に行くのが楽しいと 答える児童生徒の割合が全国平 均を超える (全国学力・学習状況調査)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>(H27)</th> <th>久留米市 (A)</th> <th>全国 (B)</th> <th>差 (A)-(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6国わかる</td> <td>80.8</td> <td>82.0</td> <td>▲1.2</td> </tr> <tr> <td>小6算わかる</td> <td>79.9</td> <td>81.0</td> <td>▲1.1</td> </tr> <tr> <td>中3国わかる</td> <td>68.6</td> <td>74.3</td> <td>▲5.7</td> </tr> <tr> <td>中3数わかる</td> <td>72.7</td> <td>71.6</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>小6楽しい</td> <td>84.0</td> <td>87.0</td> <td>▲3.0</td> </tr> <tr> <td>中3楽しい</td> <td>79.8</td> <td>82.1</td> <td>▲2.3</td> </tr> </tbody> </table>	(H27)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)	小6国わかる	80.8	82.0	▲1.2	小6算わかる	79.9	81.0	▲1.1	中3国わかる	68.6	74.3	▲5.7	中3数わかる	72.7	71.6	1.1	小6楽しい	84.0	87.0	▲3.0	中3楽しい	79.8	82.1	▲2.3
			(H27)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)																									
	小6国わかる	80.8	82.0	▲1.2																											
小6算わかる	79.9	81.0	▲1.1																												
中3国わかる	68.6	74.3	▲5.7																												
中3数わかる	72.7	71.6	1.1																												
小6楽しい	84.0	87.0	▲3.0																												
中3楽しい	79.8	82.1	▲2.3																												
令和元年度の成果等																															
評価	△	現在 (%)																													
	<p>「授業がわかると答える割合」について、小学校は、算数の割合が全国平均を上回った。中学校は、国語及び数学とも全国平均を下回った。</p> <p>「学校が楽しいと答える割合」について、小中学校とも全国平均を下回ったが、平成27年度に比べて全国平均との差が縮まった。</p> <p>本プラン計画期間を通じて、一部を除き全国平均を上回るという評価指標の達成には至らなかった。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>(R1)</th> <th>久留米市 (A)</th> <th>全国 (B)</th> <th>差 (A)-(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6国わかる</td> <td>83.4</td> <td>84.9</td> <td>▲1.5</td> </tr> <tr> <td>小6算わかる</td> <td>84.5</td> <td>83.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>中3国わかる</td> <td>72.1</td> <td>77.6</td> <td>▲5.5</td> </tr> <tr> <td>中3数わかる</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>▲2.9</td> </tr> <tr> <td>小6楽しい</td> <td>85.1</td> <td>85.8</td> <td>▲0.7</td> </tr> <tr> <td>中3楽しい</td> <td>80.7</td> <td>81.9</td> <td>▲1.2</td> </tr> </tbody> </table>	(R1)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)	小6国わかる	83.4	84.9	▲1.5	小6算わかる	84.5	83.5	1.0	中3国わかる	72.1	77.6	▲5.5	中3数わかる	71.0	73.9	▲2.9	小6楽しい	85.1	85.8	▲0.7	中3楽しい	80.7	81.9	▲1.2
(R1)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)																												
小6国わかる	83.4	84.9	▲1.5																												
小6算わかる	84.5	83.5	1.0																												
中3国わかる	72.1	77.6	▲5.5																												
中3数わかる	71.0	73.9	▲2.9																												
小6楽しい	85.1	85.8	▲0.7																												
中3楽しい	80.7	81.9	▲1.2																												



(2) 重点2 たのしい学校【安全・安心な学校づくり】

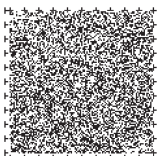
施 策		評価指標	策定時 (%)			
1	不登校対応 (学校教育課)	不登校の出現率が全国を下回り、 復帰率が県を上回ることを維持し つつ、さらなる改善を目指す(児 童生徒の問題行動・不登校等調 査)	(H26)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
			出 現 率	11.5	12.6 (国)	▲1.1
			復 帰 率	49.6	34.8 (県)	14.8
令和元年度の成果等			現 在 (%)			
評価	○		(H30)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
平成30年度の不登校児童生徒の出現率は、小中学校とも全国平均を下回った。復帰率は、小学校では全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回った。 本プラン計画期間を通じて、概ね評価指標を達成することができた。			出 現 率 (小)	3	7	▲4
			出 現 率 (中)	30	36	▲6
			復 帰 率 (小)	50.0	49.1	0.9
			復 帰 率 (中)	46.3	48.4	▲2.1
			※出現率=不登校児童生徒数/全児童生徒数 ※復帰率=復帰者数/不登校児童生徒数			
			※復帰率に関し県は未公表			

施 策		評価指標	策定時 (%)			
2	いじめ問題対応 (学校教育課)	いじめの認知件数が全国を上回り、 解消率が全国平均を超える(児 童生徒の問題行動・不登校等調 査)	(H26)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
			認 知 件 数	40.7	17.8	22.9
			解 消 率	93.7	88.9	4.8
令和元年度の成果等			現 在 (%)			
評価	△		(H30)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
平成30年度はいじめの認知件数は、小中学校ともに全国平均を上回った。解消率は、小中学校ともに全国平均を下回った。 本プラン計画期間を通じて、いじめの認知率は全国平均を上回ったが、解消率が評価指標の達成には至らなかった。			認 知 件 数 (小)	86.6	66.0	20.6
			認 知 件 数 (中)	34.2	29.8	4.4
			解 消 率 (小)	76.7	84.7	▲8.0
			解 消 率 (中)	81.1	82.8	▲1.7
			※児童生徒1000人あたりのいじめ認知件数			



施 策		評価指標	策定時 (%)			
3	学校生活充実への支援 (学校教育課)	学校に行くのが楽しいと答える児童生徒の割合(再掲)や、自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合が全国平均を超える(全国学力・学習状況調査)	(H27)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
			小6楽しい	84.0	87.0	▲3.0
			中3楽しい	79.8	82.1	▲2.3
			(H27)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
			小6よいところ	72.0	76.4	▲4.4
			中3よいところ	60.5	67.1	▲6.6
令和元年度の成果等			現 在 (%)			
評価	△		(R1)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
<p>「学校が楽しいと答える割合」について、小中学校とも全国平均を下回ったが、平成27年度に比べて全国平均との差が縮まった。</p> <p>「自分にはよいところがある」と答える児童生徒の割合は、小中学校とも全国平均を下回ったが、平成27年度に比べて全国平均との差が縮まった。</p> <p>本プラン計画期間を通じて、全国平均を上回ることができず評価指標の達成には至らなかった。</p>			小6楽しい	85.1	85.8	▲0.7
			中3楽しい	80.7	81.9	▲1.2
			(R1)	久留米市 (A)	全国 (B)	差 (A)-(B)
			小6よいところ	77.4	81.2	▲3.8
			中3よいところ	67.8	74.1	▲6.3

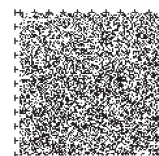
施 策		評価指標	策定時
4	学校安全への支援 (学校教育課)	日本スポーツ振興センター災害給付対象けが件数の減少(小学校)	H26年度 1,612件
			令和元年度の成果等
評価	◎		現在 (%)
<p>平成26年度と比較して、30年度は29件減少した。なお、令和元年11月末時点の件数については、平成30年度の同じ時期と比較して減少している。</p> <p>本プラン計画期間を通じて、けがの件数が減少したことで評価指標を達成することができた。</p>			H30年度 1,583件
			<p>参考</p> <p>(H30.11.30現在) 918件</p> <p>(R 1.11.30現在) 846件</p>



(3) 重点3 久留米版コミュニティ・スクールの推進【学校・家庭・地域の協働】

	施 策	評価指標	策定時 (%)
1	学習習慣定着への支援 (学校教育課)	家庭等での学習時間の向上(1時間以上) (全国学力・学習状況調査)	H27年度 小6 55.7 中3 63.8 ※平日に家庭学習を1時間以上している児童生徒の割合
	令和元年度の成果等		現 在 (%)
	評価	◎	R1年度 小6 62.4 中3 66.8 H30年度(参考) 小6 62.4 中3 67.3
	家庭等での学習時間が1時間以上である小学校児童の割合は、前年度と同じで平成27年度を上回った。中学校生徒の割合は、前年度を下回ったが、平成27年度を上回った。 本プラン計画期間を通じて、家庭等での学習時間が向上することができた。		

	施 策	評価指標	策定時 (%)
2	地域学校協議会提言実働化への支援 (学校教育課)	地域学校協議会提言の達成率の向上	H27年度 達成率 71.7
	令和元年度の成果等		現 在 (%)
	評価	◎	H30年度 達成率 74.2
	地域学校協議会からの提言を受け、学力面では放課後等学習会や家庭学習の充実に、生活面ではスローメディアや読書の促進等に取り組んだ。その結果、達成率は平成27年度より向上した。 本プラン計画期間を通じて、提言の達成率向上をすることができた。		



2 今後の方向性について

第3期プランで設定した9つの評価指標に対する計画期間中の評価は、達成「◎」が4つ、概ね達成「○」が1つ、未達成「△」が4つでした。令和2年度から始まる次期プランでは、第3期プランの効果があつた取組の「充実・定着・拡大」を目指し、以下の内容を踏まえたプランの推進を図っていきます。

(1) 学力の保障と向上の取組を充実させるために、より具体的に進める必要があります。

重点1「わかる授業」については、小学校の一部教科区分で全国平均正答率を上回る年度もありましたが、計画期間中に評価指標を達成するまでには至りませんでした。一方、外国語教育の推進においては、「英検3級以上の取得率」が全国値を上回り、評価指標を達成することができました。

次期プランにおいては、学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を具現化した授業づくりの全市的な取組を通じて、学力の保障と向上における課題克服をめざしていきます。また、教育ICTの効果的な活用等による個に応じた指導の充実継続的に取り組み、その成果を各学校に還元していきます。さらに、外国語教育の推進においては、評価指標は達成したものの、その成果を学力の向上にまでは十分に反映できていなかったことから、外国語教育の充実に向けた新たな施策を進める必要があります。

なお、評価指標においては、「全国学力・学習状況調査で全国平均正答率を上回る」に加えて、同じ児童生徒の学力実態の経年変化を新たな指標として検討していきます。

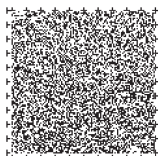
(2) 安全かつ安心して学べる学校づくりを定着させるために、継続して進める必要があります。

重点2「たのしい学校」については、不登校出現率は全国が増加傾向にある中、本市では減少傾向を示し、いじめの認知件数も全国平均を超えるという結果を残し、評価指標を達成することができました。また、学校安全の指標とした小学校でのケガの発生件数も計画初年度より減少させることができました。

これは、計画期間中、各学校において、不登校やいじめ問題の早期発見・早期対応の組織的・計画的な取組が定着してきたことや小学校で「事故やケガは一人ひとりの予防や備えがあれば防ぐことができる」という考えで実施したセーフスクールの取組による効果が現れたものと言えます。しかし、一方で不登校復帰率やいじめ解消率は設定した指標の達成までには至りませんでした。

子どもたちが安全かつ安心して学校生活を送ることができる環境をつくることは、全ての教育活動の基盤であり、学力の保障と向上を図る上で欠かすことができない土台でもあります。

次期プランにおいても、子どもたちが安全かつ安心して学べる学校づくりは継続して推進していく必要があります。すべての「くるめっ子」が「学校に行くのが楽しい」と思える学校づくりを目指していきます。



(3) 学校・家庭・地域の協働の取組を拡大し、さらに進める必要があります。

重点3「久留米版コミュニティ・スクールの推進」については、「家庭等での学習時間の向上」「地域学校協議会提言の達成率の向上」という評価指標とともに達成することができました。第3期プラン計画期間中には、各学校においてスローメディアの取組を通じた学習習慣の定着や地域学校協議会による放課後学習会の実施など、地域の実態に応じた創意工夫ある取組が展開されました。また、地域学校協議会委員を集めてのブロック研修会を実施し、期待される役割の理解や情報交換を重ねる取組も定着してきました。

次期プランにおいては、これまで積み重ねてきた地域学校協議会（久留米版コミュニティ・スクール）の成果を引き継ぎながら、文部科学省が推奨し、現在「努力義務」化されているコミュニティ・スクール（学校運営協議会）への移行も視野に入れた、学校・家庭・地域の協働をさらに進めていきます。

また、全中学校区で取り組まれている学園コミュニティと地域コミュニティとの協働による中学校区人権のまちづくりの支援を通じて、豊かな人権感覚をもった子どもたちの育成をさらに進めていきます。

(4) 教職員の働き方改革を推進し、教師力向上への支援を充実させるために、より具体的に進める必要があります。

本市の教員の勤務実態調査の結果、月当たりの在校時間が80時間を超える、いわゆる「過労死ライン」相当にあたる教員が、小学校で15.4%、中学校で32.8%（令和元年5月調査）存在することが分かりました。業務改善推進モデル校（小中各1校）で実施したアンケートでは、1日の平均勤務時間が小学校で11.4時間、中学校で11.8時間という長時間勤務の実態も明らかになりました。

第3期プランの計画期間中においても、学校閉庁日の実施、校務支援システム、テレワークの導入、久留米版スクールサポートスタッフ事業の展開など、働き方改革の具体的な取組が行われてきました。

教職員の世代交代が急速に進む中、次期プランにおいても、教師力の向上をより具体的に進める必要があると考えます。その推進にあたっては、働き方改革の推進による業務改善への支援を通じて、教職員が子どもと向き合う時間を十分確保し、健康でやりがいをもって研修や自己研鑽ができる環境を整備することを目指していきます。

